

# 採血を受けた幼児が「がんばった」と 実感できるケア方法【第1回】

研究課題/領域番号：20K19133      研究種目：若手研究

研究課題：採血を受けた幼児が「がんばった」と実感できるケアの標準化と効果の検証

研究代表者：浅利 剛史

## 幼児のがんばりを評価できないか？

- これまでのプレパレーションの評価は「痛み」や「不安」といった変数で評価し、「ネガティブなものが軽減できた」という評価⇒ここに違和感を覚えた
- 幼児の良いところを評価したい⇒採血・予防接種時にがんばっている幼児の姿

そもそも、採血を受けた幼児が「がんばった」言動とは？

- 看護師と保護者へのインタビュー
  - 小児看護学を教えている看護教員へのアンケート
  - 小児看護に携わる臨床看護師へのアンケート
- を基に作成した「がんばったスケール」

（浅利剛史: 採血・予防接種を受けた幼児の「がんばったスケール（3-7歳児版）」の開発. 札幌医科大学大学院博士論文）

そもそも、採血を受けた幼児が「がんばった」言動とは？

- 皆さんのアイデアを教えてくださいてもよろしいでしょうか。
- どのような「がんばった」言動が思い浮かびますか。

# 【第1因子】 抜針後の充足感

抜針後に表情が明るくなる

抜針後に穿刺部を大人に見せる

抜針後に「痛くなかった」と言う

医療者に自分はがんばったどうかを確認する

ご褒美をもらい喜ぶ

抜針後に医療者にお礼を言う

抜針後に安堵感を示す表情をする

## 【第2因子】 主体的な採血・予防接種への参加

椅子に座る

処置室の中にいつづける

採血・予防接種を受けるために腕を出す

動かないで同じ姿勢を維持する

医療者の話を聞く

採血・予防接種を受けることに対して抵抗していた力を弱める

# 【第3因子】 不快な情動の表出

不安な表情を浮かべる

穿刺中に痛みを表出する

「恐怖」の気持ちを表現する

## 次回までのワーク

1. 採血場面（採血者でも介助者でもOK）で「がんばったスケール」を用いて幼児の様子を評価する。
2. 幼児の様子を見てどう思ったかを振り返る。
3. ご自身がどのようにふるまったか（ケアしたか）を振り返る。